

令和 5年度 園評価書

園番号

9

園名

長沼こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな たくましい子	自分で感じ	○いろいろなことに興味や関心もち、自分から遊びを展開していく	・子どもの興味・関心に合わせた玩具、素材、道具などを準備しておくことで子どもが選択して遊び、考えたり工夫して作ったりする姿が多く見られた ・経験したこと、実際に見たことを遊びに取り入れ、年中組・年長組は絵本の世界などイメージをもって遊びを展開することも増えてきた	A	A	・先生達が遊びに対し、環境を作ったり子ども達が楽しめるようにという姿勢を見せていることが子ども達の姿につながっている	・引き続き園内も含めた地域の自然(山、公園等)に触れていく。自然物を見つけ拾ったり集めたりすること、料理ごっこや玩具・飾り作りに取り入れるりする中で楽しんでいたり試行錯誤したりする等の経験をしていく
	自分で考え	○自分の思いや感じたことを言葉や行動で表現している	・乳児組は保育者が子どもの仕草や表情を見たり、つぶやきや言葉を聞き逃さず言葉にして返したりしていくことでわかってもらえるという安心感をもって表現している ・幼児組は遊びの中で考えたこと、発見したこと、不思議に思ったことなど思わず伝えたいという思いをもち表現している	A	A	・先生達の心が豊かだと子ども達が安心して自分を表現しようとしているのではないかと感じている ・意見や思いがぶつかり合いながらも仲良くできるのが子どもはいいと思う ・友達の思いに気づく“気づく”の捉えの共有が職員間でできること良い ・子どもは“自分”を出す時期がきちんとあってこそ友達に目が向いていくのでは	・全園児、自分の思いを安心して出すことを基盤とし、それぞれの発達段階によって友達や他の人の思いが感じられるよう人的環境、物的環境について職員間で話し合い教育・保育をすすめていく
	自分で選ぶ	○友達に思いに気づきながら一緒に遊びを楽しんでいる	・発達年齢が低く言葉が出ない子どもも互いの表情を見て楽しい雰囲気を感じながら遊ぶ。保育者教諭が言葉添えや目となり一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにしている ・遊びが充実し、友達の考えや思いに気づく場面が出てきている。役割を決め活動の中で友達の意見に賛成したりお互いの思いを調整しようとする。時には保育者に援助してもらい気持ちに折り合いをつけることもある。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	教育課程や学年目標を理解し、いろいろな人・もの・自然とかかわることができるよう教育及び保育している	・2歳児の園庭交流、3・4歳児の農業高校と自然や動物と触れ合っの交流、5歳児の千代田小学校校内探検や、上土こども園交流等各年齢に合った交流を実践した。 ・5歳児は国際交流で中国の文化や遊びに触れられ、しめ縄作りで地域の方々に編み方やしめ縄飾りの由来からの意味をわかりやすく教えていただき知識を得た	A	A	・地域、自然とのつながりにとても恵まれている	・各年齢に合った外部との交流活動を引き続き実践し色々な人と関わる力をつけていく ・教育課程、学年目標を共通理解する。子どものその時々思いに寄り添い関わる養護面を全学年意識する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の健康状態や生活リズムに配慮しながら、安心して園生活が送れるようにしている	・保護者と送迎時のコミュニケーションをとり、一人ひとりの心と体の健康状態を把握、職員間で共有を図り無理のない活動・早めの就寝・食事量の調節等一人ひとりに合わせた配慮をしている	A	A	・連携園との交流、高校生との交流が計画的にやっており、地域に愛されている園だと感じている。上土こども園との交流はどのように行ったのか。子どもがとても喜びそうですね	・引き続き保護者とのコミュニケーションを大切に、子ども達の心身の状態の把握、それによる配慮ができるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの心を動かす環境づくりをしている	・自然物・素材・道具・遊具等子どもが選択できるような環境を整えておくことで作ったり組み立てたり工夫していく姿につながった ・夢中になっていることは室内・戸外問わず経験できるように室内外それぞれの環境を整えていった	A	A	・先生方の意志ある環境準備はすばらしい。子どもにとってどんなことがいいのか、成長につながっているのか園で行っていることをもっとアピールしていくといい	・子どものその時々興味・関心に合った環境、季節ならではの遊び環境等を準備したり、子どもとの対話を大切に一緒に遊んでいき、「またやりたい」につなげていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	多様な災害や事故に備えて訓練を重ね、全職員で安全な園生活を保障する	・地震・火災・浸水訓練、不審者訓練を様々な想定、時間帯等を変え行っている。その都度見直し、職員の役割などの確認をしていた。子ども達にも上靴を履く大切さやヘルメットの正しい被り方など自分の身を守ることを伝えていく	B	B	・セキュリティ一面は、できる限り意識していくこと、不審者に入られないようにすることでもうだが、入ってきた時どうするか訓練をしておくことが大切なのではないか	・様々な災害等に対する訓練を想定を変えながら行い、その時々合った避難の仕方が臨機応変にできるよう役割分担など確認しながら行っていく。不審者訓練のフローチャートを再度作成していく ・災害時、緊急時に使用できるよう全職員がホイッスルを持つ
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣、衛生習慣が身につくように家庭と連携し発達に合わせて指導している	・発達段階や個人差に配慮しながら子どもがやってみようと思えるような言葉がけ、認めを意識し意欲につなげている ・年長組では活動や温度に合わせての衣服の調節やうがいや手洗いをする意味などを、子ども達自身が考えてできるような言葉がけを意識した	A	A	・校長先生が首から下げているホイッスルがいざという時役に立つのではないかと	・手洗い、うがい等基本的な生活習慣や衛生習慣が身につくよう園で継続し支援していきつつ、小学校の養護教諭等外部の方に指導してもらい機会をもっていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、その児の好きなこと、得意なことが活かす園生活を楽しめるようにする	・3ヶ月に1回保護者との面談のもと、サポートプランの作成、教育保育実践を行っている。その児の好きなこと、得意なことを活かしながら身の回りのこと、人との関わり、言語面などそれぞれの項目でスモールステップを意識し成長を支えている	A	A	・子どもの見方一味方 一味方になって関わるといいますね。充分できていると思う	・特別支援のリーダーを中心に支援児担当の職員が定期的に集まり、その児の教育・保育について、またクラス保育への参加の仕方についてなど考え合ったりお互いのサポートプランを見合ったりしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	子どもの実態、遊びの実態を全職員が共有し連携して保育している	・昼の打ち合わせ、職員会議、ケース討議、公開保育などで子ども達の実態や遊びの実態を共有している。公開保育では会計年度職員も可能な限り参加したり、動画撮影した保育の一場面を見て子どもの思いを探ったり保育者の関わりについて学び合う機会をもった	B	B	・全職員が共有するというには限界がある。充分できているとは思いますがまだ工夫できることがあれば方法を考えていくといい	・様々な職種で職員がそれぞれの役割を果たしながらも子ども達のために声をかけ合い協力できる体制を作る
6 研修	(1)研修体制の充実	自ら遊びを繰り返してあげられるよう、地域の山とこども園を歩き来ながら活動し、環境づくりをしている	・観音山や谷津山に意識的に出かけて行った。拾ってきた自然物や製作に取り入れている。年長組は不思議な木やあやし場所などを見つけお話しの世界とリンクさせながら遊んでいる。ドキドキワクワクの気持ちを味わいながら楽しんでいる ・山マップを作成し見つけたもの・ことを写真や文字で示し、子ども、保護者、職員皆の共有ツールとなっている	A	A	・歩いて行ける山があるということは子ども達にとっても良い環境。終わりはないので継続して行って欲しい	・遊び改善構想を通じて一年間具体的に何をやっていくかを明確にし、各学年での抑えをきちんとし取り組んでいく ・自然に関する教材研究を全職員が関わり楽しく行う
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもたちが自分から遊び出したり、片づけたりできるよう環境づくりをしている	・子どもの作ったものや作り途中のものに名前や題名をつけることで、続きを楽しむにしたり、作ったものを認められ自信になったりしている ・廃材の部屋としてのそら組の環境維持が難しいこともある。活用方法や環境維持について課題が残る	B	A	・振り返りを活かして継続的に研修されているのがすばらしい	・園庭での遊びの保障時間を片付けの時間も含め余裕をもち作ったり次に遊びたいような環境を意識していく。“片付け”の捉えを職員間で共通理解すると共に、判断の難しいときは声をかけ合っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	様々な行事や活動を通し、保護者と子どもの育ちを共有すると共に、保護者同士を繋ぐ機会としていく	・後半もわんぱく遊び・劇場ごっこ等保護者同士が顔を合わせ話し合いの場がもてた。子どもの育ちを喜び合ったり今現在の悩みを共有したりすることができた ・乳児組のドキュメンテーション、幼児組の保育ボードには子どもの姿のみでなく遊びの中で育ちを意識して記載している	A	A	・片付けをどこまで求めるのか、年齢や子どもの様子によっても違うと思うので共有しておくことが必要である	・コドモンの配信システムを利用し、園で継続している事業や行事について保護者に発信していく ・保護者や地域の方が必要とする子育て情報 ・上土こども園、千代田小学校、農業高校、科学技術高校、2歳児地域園交流 ・おしゃべりサロン ・一時保育
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育を行い情報共有をしている。また近隣の園、小、中、高と交流する機会を設け関わる力を深めていく	・自園の公開保育に公立園の職員、地域の私立園の職員が参加し、子どもの“今”の実態に合った環境づくりや保育教諭の関わりなど学び合った ・前半の交流活動に加え、年長組が科学技術高校交流、千代田小学校の校内探検に行かせてもらった。生活科の買い物ごっこの授業に参加し楽しい経験を小学校への期待、安心感につながった	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンや一時預かりを通して保護者の相談にのったり、子育ての情報を発信している	・毎月おしゃべりサロンを開催し、親子で触れ合っ遊んだり子育てに役立つ講話を聞いたりする機会を大切に。園が地域の親の思いの場となり参加者同士の繋がりが感じられた ・一時保育は可能な範囲で受け入れていった。繰り返し利用している子はクラスの雰囲気にも慣れていき、保護者も安心してた	A	A		